

建築研究所ニュース



平成 27 年 12 月 3 日

建築物の地震後の継続使用性に役立つ耐震設計手法の構築に関する 研究成果報告会の開催について

1.開催目的

建築研究所では、今年度までの3年間で「庁舎・避難施設等の地震後の継続使用性確保に資する耐震性能評価手法の構築」に関する研究課題を実施しております。本研究課題は2011年に発生した東日本大震災で得られた教訓に基づき、地震後の継続使用性に関する阻害要因分析と地震後の継続使用性に資する要求性能の提案、地震後の継続使用性確保に必要な部位の耐震性能評価手法の研究、地震後の継続使用性確保に資する建築物の耐震性能評価手法と評価事例の構築を行うことで、地震後継続使用できる建築物の実現を目指しています。そこで、本課題によって得られた成果を社会に広く公表するために報告会を実施いたします。なお本報告会は、(公社)日本建築士会連合会の建築士会継続能力開発(CPD)プログラムにも(5単位)認定されております。また、(一社)日本建築構造技術者協会のJSCA建築構造士登録更新のための評価点対象報告会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2.成果報告会の概要

日時：平成28年1月28日(木) 10:30 - 17:00 (会場は10:00)

場所：建築会館ホール(東京都港区芝5丁目26番20号)

聴講料：無料

定員：190名

プログラム：別紙

申し込み方法：FAX または E メールで氏名(ふりがな)・所属先名・連絡先を明記のうえ、下記宛にお申し込み下さい。定員になり次第、締め切ります(建築研究所のHPにてご案内致します)のでお早めにお申し込みください。

申込先： 国立研究開発法人建築研究所 研究成果報告会事務局

E-mail: sympo27@kenken.go.jp FAX: 029-864-6773

(内容の問合せ先)

国立研究開発法人 建築研究所

所属 構造研究グループ

氏名 向井 智久

E-mail t_mukai@kenken.go.jp

建築研究所 研究成果報告会 プログラム

『庁舎・避難施設等の地震後の継続使用性確保に資する耐震性能評価手法の構築』

建築研究所では、今年度までの3年間で「庁舎・避難施設等の地震後の継続使用性確保に資する耐震性能評価手法の構築」に関する研究課題を実施しております。本研究課題は東日本大震災で得られた教訓に基づき、地震後の継続使用性に関する阻害要因分析と地震後の継続使用性に資する要求性能の提案、地震後の継続使用性確保に必要な部位の耐震性能評価手法の研究、地震後の継続使用性確保に資する建築物の耐震性能評価手法と評価事例の構築を行うことで、地震後継続使用できる建築物の実現を目指しています。そこで、本課題によって得られた成果を社会に広く公表するために報告会を実施いたします。なお本報告会は、(公社)日本建築士会連合会の建築士会継続能力開発(CPD)プログラムにも(5単位)認定されております。また、(一社)日本建築構造技術者協会のJSCA建築構造士登録更新のための評価点対象報告会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

10:30~10:35	主催者挨拶	建築研究所 西山功
10:35~10:55	趣旨説明(プロジェクト全体概要)	建築研究所 向井智久
10:55~11:45 (10:55-11:05) (11:05-11:15) (11:15-11:25) (11:25-11:45) (11:45-12:00)	<u>東日本大震災で顕在化した被害建築物の要因分析</u> ①RC造共同住宅を対象とした被害要因分析 ②鉄骨置き屋根RC体育館の被害要因分析 ③杭基礎が大破したRC建物の被害要因分析 <u>東日本大震災で顕在化した被害事例と地震後継続使用性に関する要求性能の検討</u> 質疑応答	建築研究所 向井智久 建築研究所 長谷川隆 建築研究所 柏尚稔 建築研究所 喜々津仁密
13:00~14:20 (13:00-13:30) (13:30-14:00) (14:00-14:20)	<u>地震後の継続使用性確保に必要な部位の耐震性能評価手法</u> ①RC壁の損傷評価のための構造実験 ②体育館定着部の損傷評価のための構造実験 ③杭基礎の損傷評価のための構造実験	建築研究所 坂下雅信 建築研究所 長谷川隆 建築研究所 平出務
14:20~14:35	休憩	
14:35~16:10 (14:35-14:50) (14:50-15:15) (15:15-15:40) (15:40-16:05) (16:05-16:10)	<u>地震後の継続使用性確保に資する建築物の耐震設計事例</u> ① 全体概要 ② RC壁を有効利用した庁舎・共同住宅の設計例 ③ 支承部を有する鉄骨置き屋根RC造体育館の設計例 ④ 杭基礎を有する学校・共同住宅の設計例 質疑応答	三菱地所設計 溜正俊 大成建設 服部敦志 新日鉄住金エンジニアリング 倉田高志 日本設計 三町直志
16:10~16:20	休憩	
16:20~16:50	総合討議・質疑応答	
16:50~17:00	閉会の挨拶	建築研究所 五條渉

司会：平出務・喜々津仁密・向井智久・加藤博人

(内容および時間は、都合により変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。)

日時：平成28年 **1月28日**(木) 10:30 - 17:00

会場：**建築会館ホール**(東京都港区芝5丁目26番20号)

定員：190名(先着順)

参加費：無料(事前申し込みをお願いします)

申し込み方法：FAX または Eメールで氏名(ふりがな)・所属先名・連絡先を明記のうえ、下記宛にお申し込み下さい。定員になり次第、締め切りますのでお早めにお申し込みください。

申込先：国立研究開発法人建築研究所 研究成果報告会事務局

E-mail: sympo27@kenken.go.jp FAX: 029-864-6773

主催：国立研究開発法人 建築研究所



後援(順不同)：国土交通省、(一社)日本建築学会、(一社)日本建築構造技術者協会、

JASO 耐震総合安全機構、(一社)日本建設業連合会、(公社)日本建築家協会、(公社)空気調和・衛生工学会、(公社)日本建築士会連合会、

(一財)建築コスト管理システム研究所、建築研究開発コンソーシアム、(一社)公共建築協会、(一財)日本建築センター、

(一社)日本鋼構造協会、(公社)日本コンクリート工学会、(一社)コンクリートパイル建設技術協会、(一財)ベターリビング、

(一社)日本基礎建設協会、(一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一財)日本建築防災協会